

住み慣れた地域で、自分らしい生活を、送るために

台東区

在宅療養支援窓口通信

令和3年8月号
No. 7

在宅療養にお困りの方・訪問診療を考えている方のお手伝いをします

○在宅療養支援窓口の相談事例紹介

<相談内容>



ケアマネ



娘

入院していた母の退院が決まりました。入院する前と状態が違うようで、病院からは訪問診療を入れた方が良いと言われました。コロナ禍で面会ができないため、母の様子がわかりません。何をしたらいいのでしょうか。

<支援内容>

退院日が数日後に決まっていたので、病院と連携をとり、退院後に在宅医を探すことにしました。また、退院の翌日にケアマネジャーと一緒にご自宅へ伺い、エアーマットの使用法、飲みやすい食べ物の説明、尿管の管理方法、室温管理等の介護時の注意点をご家族とヘルパーに説明しました。

全身状態と食事摂取状況から、受診が必要と思われたため、入院していた病院と情報共有を行い、ご家族の意向を確認して、入院前にかかっていた家の近くの病院の受診を手配しました。

<相談者の反応>

ご飯も食わず寝たきりの母を見て、どうしたらいいかわからず不安でした。退院した翌日に家に来てくれて、母親が寝ているベッドの環境を整え、いろんなアドバイスをしてくれ、本当に安心しました。

受診の結果、入院となりましたが、本人も馴染みのある病院なので安心していると思います。



ケースを振り返って

相談者は、コロナ禍で入院中の面会ができず、どの程度母親の状態が変わったか、電話で話を聞くだけではわかりませんでした。実際に退院後の母親の様子を見て、相談者の不安は大きくなりました。

しかし、退院翌日に自宅を訪問して、本人の状態やご家族の気持ちを確認し、ケアマネや病院と連携して支援したことが、相談者の心理的負担を軽減させ、安心に繋がりました。

適切な支援を行うためには、現場に出向き、状態や生活環境を確認することが大切であり、実際に顔を見て対応することで、相談者やご家族に安心感を持ってもらうことができるということを改めて実感しました。

在宅療養支援窓口では、在宅療養における医療面を中心とした様々なご相談に応じます。

ケアマネジャーや医療関係者・医療機関のサポートも行っております。是非窓口へご相談ください！

台東区在宅療養支援窓口 電話：03 (5603) 0235

